

水門付近の環境の変化

■水門付近の泥の堆積

河口、水門付近、潟湖内で採集を試みたが、先月に続きイシガレイを採集することができなかった。

水門付近の七北田川側は、昨年は砂地であったが現在は泥が増えている。Fig.1は水門付近の様子（Fig.2 3の赤囲い）であるが、足跡が残る粘りの強さがある。Fig.2は昨年6月、Fig.3は今年4月の河口の様子である。Fig.3には黄色矢印で示した流れが見られる。この流れが直角に近い角度で導流堤にぶつかって流れが緩やかになり、泥が堆積するようになった可能性が考えられる。

これまでの調査で、イシガレイは砂地を好み泥地では採集されてない。流れの変化は底質の変化につながり、イシガレイの生息域に影響を与えていることが考えられる。



(Fig.1 導流堤の最も西側にある水門の七北田川に面した側)



(Fig.2 2024.6.23の七北田川河口)



(Fig.3 2025.4.13の七北田川河口)

■抱卵したケフサイソガニの仲間

水門の七北田川側で、抱卵したケフサイソガニを採集した（Fig.4）。雄（Fig.5）と異なり鉗脚に毛の束はない。なお、ケフサイソガニの仲間はケフサイソガニとタカノケフサイソガニに分けられているが、この個体についてどちらであるかの同定はできていない。



(Fig.5 ケフサイソガニの仲間 雄)



(Fig.4 抱卵したケフサイソガニの仲間)

(佐藤 賢治)